

この子らと

令和7年9月号

命輝く子ども



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

爽秋の9月を迎えて



9月は、残暑が例年より厳しくなりそうです。それでも朝・夕をはじめとして少しずつ涼風を感じるようになることと思います。

本園では、年長組の高齢者施設との交流、防犯教室、8・9月誕生会、そして秋分の日を境に10月12日の運動会に向けての全体リハーサルを予定しています。暑さ指数を基に熱中症対策をとりながら各種行事を進めてまいります。



『鹿児島市/鹿児島県の感染者の状況』

8月現在(鹿児島市/鹿児島県)

	8/4~8/10(日)	8/11~8/17
コロナウイルス	207/767(人)	127/720(人)
急性呼吸器感染	914/3927(人)	544/2737(人)
感染性胃腸炎	56/138(人)	47/105(人)
伝染性紅斑	30/51(人)	27/57(人)
ヘルパンギーナ	39/100(人)	19/38(人)

熱中症と併行して感染症対策も危機意識をもって蔓延防止に取り組んでまいります。

地震・津波は、どうして起こる?

海底を作っているフィリピン海プレートが年数cmの割合でユーラシアプレートの方へ移動し、その下へ潜り込みます。

ユーラシアプレートの先端部が引きずり込まれ、**ひずみが蓄積**します。

ひずみがその限界に達したとき、ユーラシアプレートが跳ね上がり、**地震が発生**します。その際、**津波が発生**します。

2011年の東北地震、震度7、津波の高さ10m 前後、死者や行方不明者約2万人の惨劇が起きました。本園では年4回地震、1回は津波からの西田小学校への避難訓練を実施しています。

世界でただ一人の私

世界でただ一人の私を、どんな自分に仕上げていくか、その責任者が私であり、みなさん一人一人です。

「自分は、世界でただ一人の自分を創っていく責任者です。」(教育者:東井義雄)

10億の人に10億の母あらむも我が母に

勝る母ありなむや (暁烏敏)

江戸時代の剣豪宮本武蔵の作家吉川英治の元職は印刷工でした。

辛い毎日、母からは、赤いひもで結わえてある新聞紙に包まれた数冊の本とたばこ3箱が送られてきました。



吉川は、母がこれを送るために、何日も徹夜の内職をしたであろうと泣きました。赤いひもは、母が長い間洗いざらした腰ひもでした。

その後、仕事に絶望して、遊侠(人の道を踏み外した生き方)の道に入ろうとしたとき、母の赤いひもが語りかけてきました。

「それでいいのかい英治、それで英治、いいのかい…」彼は正気を取り戻しました。

母の赤いひもは、英治の生き方の道しるべでした。

本園の職員は、全ての子どもの中にある「可能性」の力を信じて、その力を子ども自身が実感できるような教育・保育に取り組んでいます。

そしてその根底には、子どもたちを保育者としてだけでなく、母親や父親としての思いも併せもちながら子どもたちとかわわっているように感じています。

「子どもを愛してくれる人が、家族以外にもたくさんいた方が良い」という保育理念からだと思えます。

園の事業収入について

令和6年度の本園の保育事業に関する収入は次のとおりでした。

収入 166,090,000円

詳細については、お問合せください。(園長)